

川に親しむ

アマチュアビデオ映像作家

うら き せい いち
浦木 誠一 さん



浦木 誠一さん

山歩きとビデオ撮影が趣味という浦木さんが日野川に興味を抱いたのは、平成13年のこと。日南町が主催した日野川の源流の碑を探訪するウォーキングイベントに参加してからだったそうです。

「うっそうとした森林が長く続くど 早く抜け出したい」という気分になるんです。森を抜けて、川に出たときの開放感はとても気持ちの良いものです。でも日野川の源流を歩いてみて改めて、荒廃したブナ林を目にしたんですね。森や山ばかりではなく、その基となる川も大切にしなければ。山と森、川と海とがみんな切り離せないものだ、とそのときに感じました」と当時の思いを振り返ります。

浦木さんは以前から、中国地方では31もの山を歩き、日南町にもこれまで山を歩いたりスキーに行ったりして山と森に対する思いは強かったのですが、改めて日野川の大切さに気づいたときに「日野川のことを知らない」と感じられたそうです。そこで当時、地域住民と行政、企業で発足した「日野川の源流と流域を守る会」に参加。「自分自身が勉強していくために」と、日野川や会の活動をビデオに収めていったのです。そして平成14年には「まずは百聞は一見にしかず」とばかりに、夫人や友人らと一緒に日野川の源流から河口まで約80kmを三日間かけて歩き、その模様をビデオに撮影しています。さらに翌年には逆に河口から源流までを歩いて撮影しました。



日野川源流域の写真

完成した作品には日野川の風景とともに、流域に住む様々な人々のインタビューの様子が収められています。浦木さんは「ゆっくり歩いていると、いろいろな人と出会えます。源流から河口とでは川沿いの景色も季節感も違ってきます。地域による変化が感じられて楽しいですね」と、撮影の醍醐味を語っています。

撮影した映像は、浦木さん自身がパソコンを使って編集し、タイトルや字幕、音楽、ナレーション等を入れてひとつの映像作品としてまとめ上げています。特にナレーションは、「映像に自分の『想い』を入れていく面白さがあります」ということから、撮影した中で感じたことを浦木さん自身が文章にまとめ、読み上げています。

例えば、平成14年に鳥取県東伯町(現・琴浦町)で開催された「第17回国民文化祭ふるさと映像祭」に出品した作品「ふるさとの川 日野川」では、「未来へ引き継ぐ大切な贈り物『日野川』の清流を守る行動を一緒に始めましょう。純真な子供たちの笑顔を想いながら…」という、浦木さんからのメッセージで締めくくられています。

これらの映像作品や活動に対して、平成15年には米子市の第13回文化奨励賞と、中海テレビ放送の第7回パブリックアクセスチャンネル大賞を受賞しています。

浦木さんは出来上がった作品を地元ケーブルテレビ局に投稿しており、放送を視聴した人からの評判も上々。「作品を見た人が日野川のことを想い、川を大切にしくちやいけない、物を捨てちゃいけない、と一人でも二人でも考えてくれればいい。千のメッセージを集めて万の人に伝えたい。森から海へと伝えたいですね」と想いを語っています。